

◎ 評価対象分野・施策の方針

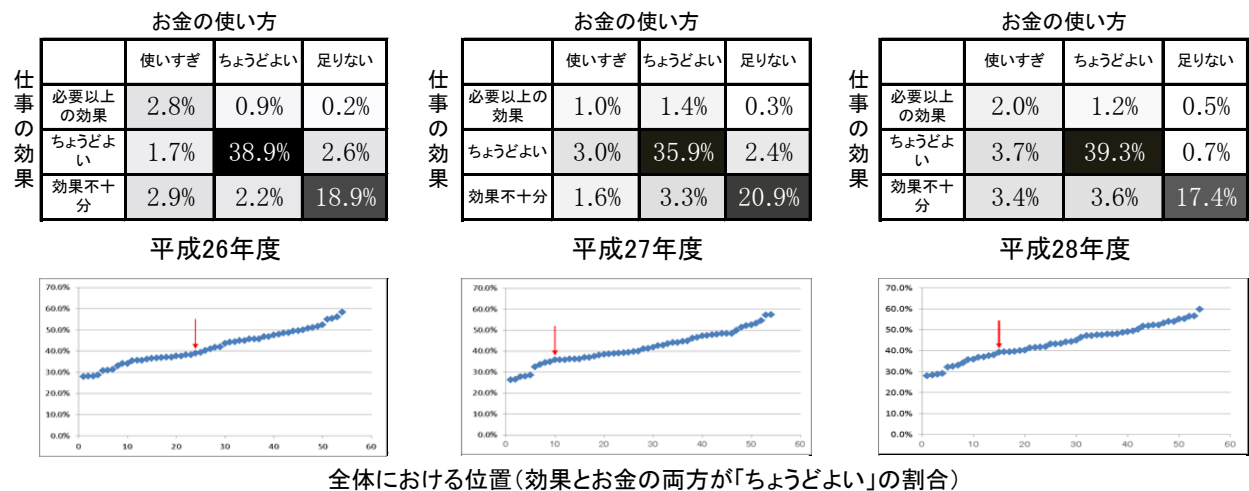
総合計画上の位置付け	分野	子育て	施策の方針	子育て支援施設の整備
------------	----	-----	-------	------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	22.8%	平成27年度	24.9%	平成28年度	23.4%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度は、お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が4割以下と低い水準であり、また「不十分」「足りない」は2割程度で市民ニーズに追いついていない。「ちょうどよい」割合は微増しているが、平成26年度の水準に戻った程度で、「足りない」「効果不十分」という回答が17.4%に下がっており、平成26年度の水準も下回っており、市民意識においては横ばいの状態と思われる。これらの数値は、他の分野と比べると低い水準が続いており、子育て施設の整備をさらに進めていく必要がある。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	27.2%	40.5%	4.3%	28.1%	100.0%
平成27年度	30.9%	36.6%	2.3%	30.2%	100.0%
平成26年度	30.3%	37.9%	3.8%	28.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①引き続き、聖アンナの園の建替、公立保育園の統合等施設整備を通じて待機児童の解消を図る。また、私立保育所等への効果的な運営支援を行い、安定的な施設運営を維持するとともに、一時預かり、延長保育、病後児保育等多様な保育サービスの充実を図る。(こども-16)
- ②にしかまくら子どもの家およびいわせ子どもの家の学校敷地内への移設に係る学校施設への給排水設備等の敷設状況等を考慮した具体的な建設敷地の決定への課題の整理。(こども-06)
- ③由比ガ浜こどもセンターの建設に向けた埋蔵文化財調査の完了及び建設工事に着手する。(こども-08)
- ④「岡本二丁目用地活用基本計画」の策定後に、基本設計等へ移行する。(こども-09)
- ⑤子どもの家及び子ども会館のあり方を見直し、指定管理制度の導入について検討する。(こども-26)
- ⑥放課後子ども総合プラン検討委員会において、放課後子ども総合プランの実施に向けた議論を進める。(こども-26)
- ⑦学童保育の市補助金を活用した、民間事業者の参入を図る。(こども-26)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
こども-06	子ども会館・子どもの家整備事業	27,534	7,888	36,589	17,385	1.1	1.2	b	A
こども-08	公立保育所整備事業	58,931	335,051	73,748	346,922	1.8	1.5	b	C
こども-09	子育て支援施設等整備事業	0	6,934	11,524	18,013	1.4	1.4	b	A
こども-16	私立保育所等整備事業	156,110	233,844	163,883	241,568	1.0	1.0	b	A
こども-26	子ども会館・子どもの家整備事業	16,617	9,395	28,883	24,904	1.5	1.9	a	A

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①待機児童解消に向けた民間保育所等整備として、聖アンナの園の建替えが完了し補助事業を行った。(こども-16)
- ②にしかまくら子どもの家及びいまいみずみ子どもの家の建築に向け、諸条件を考慮した建築敷地の課題を考慮検討し、学校および教育委員会と協議を行い、建設敷地を決定し、入札により賃貸借契約を締結した。(こども-06)
- ③平成27年度から継続していた由比ガ浜こどもセンター建設地における埋蔵文化財調査を完了させ建設工事に着手した。(こども-08)
- ④「岡本二丁目用地活用基本計画」が示す施設計画の策定を進め、用地計画の示した用地内がけ面の安全対策の構造的な検証など技術的側面からの実現可能性の検討を行った。(こども-09)
- ⑤梶原子ども会館の指定管理を平成28年10月から導入した。また、腰越と山崎子ども会館・子どもの家の平成29年4月からの指定管理者を指定した。(こども-26)
- ⑥放課後子ども総合プラン検討委員会において、放課後かまくらっ子の概要及び放課後子どもひろばの開設等について検討を行った。(こども-26)
- ⑦民間学童保育施設に放課後児童健全育成事業運営費等補助金を交付し、運営支援を行った。(こども-26)

【実施できなかった事業とその理由等】

「岡本二丁目用地活用基本計画」が示す施設計画策定の過程で、概算事業費及び建設工期について、用地計画の想定を大きく上回る見込みとなること、建設予定敷地の一部境界を改めて確認する必要があることが判明したことから、計画の策定には至らなかった。(こども-09)

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・学童保育施設(子どもの家)の待機児童対策を喫緊の課題として捉えており、早期解決に向けて、積極的に施設整備を進めた。(こども-06)
- ・由比ガ浜こどもセンター建設について、関係各課とより緊密な連携を図りながら、事業の確実な推進をしている。(こども-08)
- ・「岡本二丁目用地活用基本計画」が示す「子ども・子育て支援機能」、「市民活動支援機能」、「交流機能」の3つの機能を導入した複合施設の建設を目指し実施した、施設計画で建設予定敷地の一部境界を改めて確認する必要があることが判明したが、用地計画の示した用地内がけ面の安全対策の構造的な検証など技術的側面からの実現可能性が確認できた。(こども-09)

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・子ども会館・子どもの家整備事業については、学童保育のニーズ量を確保するため、積極的に施設整備を進める。また、施設の大規模化に対して、新たな事業展開を図るため、民間事業者への補助金、指定管理制度の導入、放課後子ども総合プランの実施等の取組も含め検討し、ニーズ量の確保に努めていく。
- ・保育園事業については、引き続き、公立保育所の効率的な運用を行うとともに、市内の私立保育所の整備等に対し補助を行い、待機児童の解消や子どもを安心して育てることができる体制整備を図る。

4 平成29年度の目標

- ①私立保育所等への効果的な運営支援を行い、安定的な施設運営を維持するとともに、一時預かり、延長保育、病時・病後児保育等多様な保育サービスの充実を図る。
- ②学童保育の市補助金を活用した、民間事業者の参入を図る。
- ③空き教室を利用している深沢小学校および関谷小学校の学童保育施設について、情緒支援学級の開設等に伴い、学校敷地内に建物を設置し、移転をするための作業に着手する。また、旧図書館に耐震改修および整備工事を施し、「御成子ども会館・子どもの家」として整備することが決定したため、平成29年度に実施設計および建築工事を実施する。
- ④由比ガ浜こどもセンター建設工事を完了させるとともに、施設の大規模化に対して必要な備品等を整備していく。
- ⑤岡本二丁目の施設計画の策定過程において、建物規模に影響を持つ建設予定敷地の一部境界を改めて確認する必要があることが判明し、施設開所予定時期が遅延する可能性があることから、用地計画作成時点で想定された「喫緊の課題」に対応するための導入施設の取扱い、用地計画作成時点で想定されなかった新たな課題への対応を含めて、導入機能の再検討を行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	こども-16	事業名	私立保育所等整備事業							
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由 保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められているため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	5	3	1	0	0	0			
	実績値	55	50	44						
	達成率	9.1%	6.0%	2.3%						

整理番号	こども-06、26	事業名	子ども会館・子どもの家整備事業							
指標の内容	子どもの家のニーズ量を確保する。					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由 平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」では学童保育(子どもの家)のニーズ量の見込みに対して、平成31年度まで確保することを目標としているため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値		1,691	1,673	1,686	1,666	1,666			
	実績値	1,355	1,457	1,719						
	達成率		86.2%	102.7%						

整理番号	こども-26	事業名	子ども会館・子どもの家整備事業							
指標の内容	放課後子ども総合プランの実施					単位	箇所	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に放課後子ども総合プランの実施を位置づけているため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値			1	1	1	1			
	実績値			0						
	達成率			0.0%						

整理番号	こども-08,09	事業名	公立保育所整備事業、子育て支援等整備事業							
指標の内容	待機児童数(各年度4月1日現在)					単位	人	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由 保育を必要とするすべての就学前児童を保育することが求められるため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	5	3	1	0	0	0			
	実績値	55	50	44						
	達成率	9.1%	6.0%	2.3%						

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・子どもの家のニーズ量の増加対策が問題である。
- ・子育て支援施設の名称が複数あり、これらの違いやサービスが受益者が本当に理解しているのだろうか、よりわかりやすい名称等を考えることが求められる。
- ・施設の整備はどこまで進めようとしているのか。目標数はあるのかが分からない。今後は限られた財源のなかで、創意工夫が求められる。
- ・誰のニーズに応えた分野・取組なのか、本当に子どものためになっているのかが分からない。



指摘への対応、コメント等

これまで、増築等により定員増を図ってきたが、今後は放課後子ども総合プランを進めニーズ量の増加に対応していく。

子どもの家や子育て支援センター等、子育て支援施設は様々あるが、施設の名称については定着していると考えている。

平成27年3月に作成した子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！～」において量の見込み(事業のニーズ量)に対する確保方策を定め施設整備等を図っている。

取り組んでいる。平成27年3月に作成した子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！～」に基づき、子育て家庭等を対象として子育て支援施策を総合的かつ計画的に進めている。

提言

- ・子どもの数が減少してきた場合、相対的にも実数でも高齢者が増加することとなる。限られた土地と建物を有効に活用し、変化に応じた活用が可能となる整備を行うべきである。子どもの家(学童クラブ機能)を学校内に整備する動きと連動して、子どもの家の再利用に高齢者も対象にすべきである。
- ・子育て支援施設として自治会館等の活用が出来ないか検討すべきである。
- ・施設面の充実には、物理的には限界があると思うが、市民や関係機関と連携をして、最大限の活用方法を検討・工夫をし、展開していったらいい。
- ・鎌倉市全体の受け入れ数を増やすことも重要であるが、地域別の分析を行い、今後どの地域を整備していくことが効果的かについても協議の上、進めていただきたい。出生率を考慮して施設整備が共働き家庭のニーズを受け止めているのか、将来を見据えた事業展開が必要である。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におくべきである。
- ・この分野に関し、総体的な意義をしっかりと捉えながら施策を展開していただきたい。

提言に関するコメント等(総論)

本市では、「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」を基本理念として子育て支援を推進してきた。

平成27年3月には、5か年を計画期間とする子育て支援事業計画「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！～」を策定し、子どもの健やかな成長、子育て支援のための施策を推進している。

計画の中では、子育ての不安や悩みを解消するための体制の整備や子育て家庭に対する経済的支援等、「子育て家庭支援の充実」や障害のある子どもと家庭、ひとり親家庭など、特別な配慮や支援が必要な子どもの状況に応じた支援として「特別な配慮を必要とする子ども・子育て家庭への支援」などを基本目標として各事業を進めている。今後も社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、子育て支援施策を総合的かつ計画的に進めていく。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・働く、働きたいお母さん方の声に相手が待ったなし状態であることから、早い対応を行おうとしている姿勢。
- ・にしかまくら子どもの家、いまいずみ子どもの家の賃貸契約を締結した。
- ・待機児童解消に向け、民間保育園の建替えが完了した。
- ・待機児童解消にむけての様々な対応、また子ども会館や子育て支援センターなどの子育て支援施設の充実により、子育て環境の充実を目指し、施設を整えつつある。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	3	↘	1	→		→
効果	○	2	△	0	—		—

《課題》

- ・子育てに関しては特に声を大きく上げたところに応える、という行政の姿勢を感じる。声をあげていないところに潜む問題にシフトチェンジしていく事業はどこにあるのか。
- ・岡本二丁目用地活用について、早急に計画、実施に至ることを望む。
- ・待機児童解消に向け、岡本保育園の新園及び明照フラワーガーデン保育園の早期開所による入所枠の拡充、聖安娜の園の建替え、(仮称)由比ガ浜こどもセンターの建設などを行っているが、今後は限られた財源のなかで、創意工夫が必要。既存施設の複合化などによる多面的な施設整備を視野におく必要もある。
- ・「量の見込み(事業のニーズ量)に対する確保方を定め施設整備等を図っている。」のであれば、ニーズ量を目標値とした指標を設定しすべきである。
- ・各事業が「効率的」に執り行われているのか分からない。
- ・指標をみると、いずれの事業もニーズに対してまだ不十分・足りていないと感じる。現状の目標で、どの程度改善できるのか、今ある施設計画の開設後でないと現状、評価しにくい部分はある。指標がどれだけ改善するのか、予測値のようなものは現段階であるのか。具体的ビジョンのようなものも示してほしい。

《提言》

- ・待機児童0まで施設の整備は続くだろうが、預けるところがあるから働こうという親と、働かなくては養育が困難であるから預けるところを確保してほしいという親とを区別(申し込み時に点数化するのはわかっているが、それだけでは把握しきれていない部分の洗い出し)するのは人道的ではないのかもしれないが、やはりここは一度考えてみる問題ではないか。
- ・近未来の「人口年齢構造」(人口減少・高齢化)をベースに「子育て施設」の汎用的運用や他目的施設の併用なども検討すべきである。
- ・子どもの家・子ども会館の運営について、民間事業者による指定管理導入にあたっては、営利に走らないよう最新の注意を払ってほしい。出来るだけ、鎌倉市内の事業者、NPO等が望ましい。また、民間業者の参入の際は、保護者の不安がないようにしてほしい。
- ・民間学童保育施設への補助金交付については、それらがどの様に使われているのかを把握し、公表すべき。
- ・どの様な工夫によってコストを減少させたか、又は同一コストで予定以上の実施を行ったか等、効率性や対費用効果について評価し、明示すべき。
- ・目指すべきまちの姿の何を実現するために、どのように考えて具体的に何をし、結果どうなったかを明示すべき。